国際会議報告

第17回国際炭素学会の印象記*

横　野　哲　朗**

第 17 回国際炭素学会 (CARBON CONFERENCE) は 1985 年6月 16 日～21 日の6日間，レキシントンにあるケンタッキー大学で開催された．開催地のレキシントンは人口約 20 万で，大学はその南に位置しており約 286 ha の広さを有していた．キャンパスには約 200 のビルディングがあり地方ののんびりした大学であつた．ホテルから会場までは徒歩で 35 分もかかり，6日間滞在したが近道がわからなかつた．やはりアメリカは車で便利な所であることがよく分かつた．幸い開催期間中は天候に恵まれた．学会会場は大学の White Hall Classroom Building で行われ，ケンタッキー大学の Prof. *R. J.* Reucroft を委員長として会議の運営が行われた．

参加総人数は約 350 人にのぼり，米国に次ぎ日本は 23 名と多数参加し，カナダ (11 人)，英，仏 (5人)，西独からも英，仏と同程度の参加者があつた．また中国，東欧圏諸国からの参加も目を引いた．発表論文数は 245 編からなり，極めて盛会であつた．参考までに分野別のおおまかな論文数を以下に示す．

◦炭化および黒鉛化	49
◦機械的および熱的性質	12
◦反応性，酸化	35
◦炭素繊維および複合体	28
◦インターカレーションの科学	22
◦工業的応用	26
◦表面科学	28
◦炭素，黒鉛の電気的性質	18
◦原子力への応用	9
◦キャラクタリゼーションおよび構造	18

これらが A, B, C の3会場で並行して討論が進められた．個々の内容については Extend Abstract を参照していただきたい．

私は炭化および黒鉛化のA会場を主に聞いた．炭素材料の用途の多様化に応じて，出発物質のピッチ，重質油を目的物を意識してよりファインにキャラクタライズしようとする傾向が見られた．炭素前駆体であり，炭素材料の性質を律するメソフェーズ組織† をコンピューターで定量化する研究にも興味を引かれた．また総合講演は毎朝 8：30～9：30 に行われた．ここに plenary lecture の題を記す．

1) Structure-Property Relationships in Carbon Fibers *D. L.* Johnson, University of Leeds
2) Coal Characterization for Coal Utilization *B. R.* Cooper, West Virginia University
3) Porosity in Carbon and Graphite-Unsolved Problems *B.* Mc Enaney, University of Bath
4) Status of Carbon-Based Prosthetics *W.* Huettner, Schunk Kohlenstofftechnik GmbH

いずれの総合講演もよくまとめられており，手際のよい Review であつた．

恒例の *George* Skakel 賞は今回は Newcastle upon Tyne 大学の Dr. *Harry* Marsh, *Charles E.* Pettions 賞は University Olegon の *J. W.* McClure に贈られ，20 日の午後に贈呈式と記念講演が行われた．私は5年前に Dr. Marsh の研究室で1年間共同研究をしていたので今回の Dr. Marsh の受賞講演を個人的にも懐しい思いで聞いた．

19日の夕方にはケンタッキーの Horse Park でバーベキューパーティーが開かれた．チキンが 400 羽焼かれている様子はアメリカらしく豪快であつた．ビールとチキンでたつぷり楽しむことができた．日本ではケンタッキーフライドチキンが有名であるが，本場ではフライドチキンの店は1件しか見つけることができなかつた．ケンタッキーではそれほど有名ではないようである．

最後に今回の国際学会出席にあたり，日本鉄鋼協会第4回日向方斉学術振興交付金を頂いたことを付記する．

* 本国際会議出席にあたつては，日本鉄鋼協会日向方斎学術振興交付金が賦与されました．

** 北海道大学工学部　工博

† 石炭または重質油を熱処理した際，その炭化初期段階の液相において出現する光学的異方性を示す小球体またはその合体した相の組織．